

丹波古文書倶楽部会報
古文書かわら版

第13号

事務連絡(高礼場)

☆ 八月例会は休会、茶話会実施

日時 8月9日(水)

午前十時

会場 柏原自治会館 3F会議室

内容 出席者間での情報交換

メインテーマ

① 私の勧める一冊の本

② 知りたい事、聞きたい事

募集チラシでお申し込み下さい。

参加×切は8月5日(土)

参加費は一人300円

☆ 九月例会

日時 9月9日(土)

午前十時

会場 柏原住民センター

会場準備(敬称略)

平岩泰典、荻野典男、村上章子、
関靖代

◎ 資料#21京都市大火日記配布中

矢持副代表から受取して下さい。

◎ ファイルドワーク(FW)予告

10月14日(土)午後一時半

現地集合 山南町慧日寺

詳細はFW実行委員会小西さん

説明有

発行・編集者 延陽伯こと岸孝明
発行所 丹波古文書倶楽部
連絡先 090-8882-5597

情報発信(読売)

☆ 歴史TAKEDA

主催 竹田地区自治振興会

会場 竹田ミニユニオンセンター

第三回 9月30日(金)午前十時

テーマ「宮神社の龍」

参加費500円、申込先青木さん

(08038257513)

☆ 歴史TAMBA

主催 柏原自治協議会

7月21日(金)10時半~12時

会場 柏原自治会館

講師 狛犬地域研究者 山内順

子さん、発表テーマは「丹波に才

カミが居た頃」

参加費300円、申込先柏原自治

協議会(0795730198)

☆ 丹波市教委 歴史講座

主催 丹波市教委文化財課

第2回 7月15日(土)

午後一時半~午後三時

会場 水上住民センター大会議室

講演 発掘調査で分かった水上地

域の歴史」講師 丹波市教委

文化財課 西岡真理氏

自己紹介(口)

◆ 春日町 岡田 君代様

エジプトを旅して

若い頃クレオパトラの映画を見て、あーがれていたエジプトへ温暖

で過ごしやすいうちに行きました。

ピストルを持った私服の警官に護

衛してもらいながら、クフ王やツタ

ンカーメン王(ミイラ)にもお会い

してきました。ギザの三大ピラミッ

ドを間近で見、内部へ息苦しく狭

い通路と急な階段に腰を屈めなが

ら、石棺の置かれている所まで入

りました。階段ピラミッドや写真で

見たことのあるスフィンクスも想像を

超える大きさでした。

ナイル川流域を外れると砂漠で、

ナセル湖のほとりに建つアブシン

ベル神殿まで、砂漠の中を往復6時

間バスで走り続けると、水の中に山

が浮いているような不思議な現象

が見え(実際は砂ばかり)所々に検

問所があり、銃を構えた軍隊の人が

3~4人警備していて物々しい感じ

です。

アスワンよりナイル川を船で下り

西岸(王家の谷、王妃の谷、貴族の

墓、ハトシエラスト女王葬祭殿、メ

ソンの巨像(東岸(コムオンポ神殿、

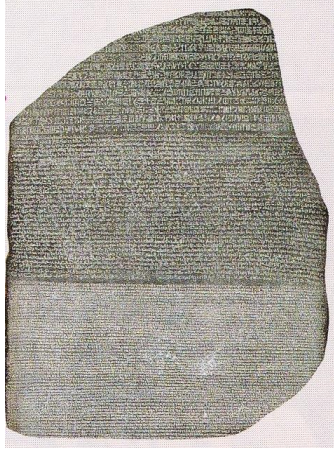
馬車でホルス神殿へ、ルクソール神

殿、カルナック神殿)等見学しまし

た。

遺跡はどれも巨大で砂の上に足を踏ん張り見上げれば、空はどこまでも青く神秘的で神を信じ、死後の復活を信じ古代エジプト文明を築いた人達と、一部の富裕層を除いて、日干し煉瓦を積んで住家として、チップをせびり、執拗に物売りつける人達が同じ民族なのかと疑問に思う程です。

中でも印象が強かったのは、エジプト考古博物館で見たツタンカーメン王の墓から出てきた埋葬品、ロゼッタストーンと言つ石(レプリカ)に刻まれた文字、女王クレオパトラの自殺により古代王朝が滅び闇に埋もれていたが、文字の解読により、5,000年も前の文明がよみがえったこと。文字の威力はすばらしい!!!



縁あって古文書倶楽部に入れていただき、先生の助けなしに一人立ち出来るのはいつの事か分りませんが、倶楽部の時間は、その時代に生きた人達の息遣いが聞こえて来るように、緊張し集中出来る楽しい一時です。(次ページへ続く)

先生をはじめ役員の皆様、倶楽部の皆様、今後ともお世話になります。が、宜しくお願ひします。

特別寄稿（読売り）

◆ 丹波古文書倶楽部の歩み（1）

前代表 川口利和

過日、岸代表から我輩に対して、過去6年間の丹波古文書倶楽部活動状況（発足の経緯、取組内容等の倶楽部の足跡）を記録したいとのこと。投稿の申し出がありました。過去6年間の役員はそれぞれの立場で倶楽部運営へ多大な寄与をされ、ご意見をお持ちかと思つたのですが、総括の立場だったことで、僭越ながら、代表して報告させていただきます。

2011年4月の倶楽部発足に当たっては、2010年度のTAMBAシアカレッジ（主催：丹波市の倶楽部活動 古文書倶楽部）の参加者のうち、有志4名（敬称略）（佐中八木、小西川口）で、同倶楽部の木村講師（現講師）の継続講師のご了解をいただけたこともあり、有志でもって倶楽部名称を「丹波古文書倶楽部」として立ち上げるごことになりました。倶楽部名称決定に当たっては「丹波古文書倶楽部」「兵庫丹波古文書倶楽部」等の案が提案されましたが、選考結果、現名称となりました。

ました。

参加者からの会費については可能な限り低廉にして参加しやすい環境を作ろうとの考えで3000円年になりました。講師料については講師のご自宅が大阪市内であることで交通費程度のお支払いしかできない状態でした。現行も同様ですが、ほぼボランティアでのご指導であります。

当初計画の講義は、10名程度の小規模な、参加者全員が講師と自由に意見の交換できるものと考えてのものであります。有志である発起人4名は古文書読解という分野の学習希望はTAMBAシアカレッジ「古文書倶楽部」の参加者例から判断して、参加者は多くないであろうとの見込みをつけ、倶楽部の立ち上げに当たっては先ず会員の確保が重要との思いで、各住民センター、JR柏原駅、飲食店等への会員募集チラシ配置、貼付、知人等への参加声かけを発起人が手分けして動いた結果、見込みを反して49名の会員が集まりました。

発起人は予想に反した多数の参加者で講座の進め方はどうしたものかと頭を突き合わせて考えたものです。それは講師にしても然りでありました。結果として、講師と調整して、現行の、参加者が数行読み解き、読解できなかった文字は講師とのマンツーマンで進める方式となりました。多くの参加者が古文書読解の初心者だったこと、2時間講座

のテキストの進み具合はゆっくりとしたものです（今では考えられない懐かしいものがあると思ひます）。また、初年度は参加者との顔合わせが必要との役員判断で、6月例会後にJR柏原駅内のレストランで16、17人の参加で昼食会を開催しました。席の隣同士で古文書学習の浅深、出身地、経歴等の話題で盛り上がったものです。

また、経費節減のために、公益財団法人兵庫丹波の森協会（丹波市柏原町）の制度である生活創造活動グループに登録し、原稿、用紙持込で印刷機使用料無料（現行は有料）、会議テーブル、椅子の揃ったグループ活動コーナー使用料無料等の特典を活用しました。

初年度の事業は①例月講座（現行と同様に、原則毎月第2土曜日、10:00～2時間、年10回、会場は主に柏原住民センター）、②昼食会（6月）、③フィールドワーク（12月講師：柏原歴史の会（柏原町）会長）、④忘年会（12月）、⑤総会（2月）でした。

フィールドワークの内容は柏原陣屋跡に集合し、同陣屋跡、丹波市立柏原歴史民俗資料館での施設歴史資料の解説、古市場公民館での古文書解説、鑑賞でありました。柏原歴史の会会長には各施設での解説、古文書準備等でお世話になりました。感謝申し上げます。

初年度は何もかもが手探りで運営だったので、刺激的ではありま

したが、参加者にはご迷惑をおかけしたかもしれません。

なお、フィールドワークの趣旨についてはかわら版（平成29年1月14日発行第7号）をご参照願ひます。

※掲載写真はできる限り個人が特定できないようにの思いで選定しましたが、掲載の写真となりました。寛大なる心でご容赦願ひます。



★フィールドワークの場面 (2011/12)



★ある月の例月講座風景 (2011)